

- ・飯館村での農的に暮らしが継続でき、かつ集落のコミュニティが維持でき、また、自然エネルギーを活用したエコロジカルな暮らしが実現できる、仮設村を構想した。
- ・戸建て仮設住宅ではなく、長屋形式で共同性の確保、効率良い建て方を想定する。
- ・建物はユニットで構成し、このユニットを外部でプレハブ的に製作し、それを避難村に運び、村の工務店、造園会社が施工し雇用も産み出す。

再生可能エネルギーの地産地消戦略



● みんなの建物
 キッチン、トイレ、多目的なスペースを持つ、みんなの建物を建設します。みんなが自然に集まってくるようなシンボリックな空間となります。ゲストハウスや外来者の体験入居の場所としても利用できます。



● みんなの農地
 敷地の北側のまとまった土地を、みんなの農地として利用します。みんなで協力し、地元の農家の支援を受け、様々な農業にチャレンジすることができあす。



● 個人の庭
 各住戸にもちょっとした庭が。ガーデニング、有機野菜の栽培など自由に趣味を楽しみましょう。



まで一な避難長屋の意義

- ① 住宅としての永続性はある。
- ② 恒常的な村として機能してもよいが、飯館村に帰村した場合は、菜園付き別荘地的な活用可能。
- ③ 居住する村民は、300万円の住宅再建補償金を活用して初期投資をする。
- ④ 残りの建設費は、補助金+倫理的投資金を活用する。

● みんなの広場
 建物と建物間の空間を、みんなの広場として利用します。子供の遊び場、井戸端会議、バーベキュー、収穫祭や夏祭りなどのイベント開催・・・住民の憩いの場となります。



● 森の家とセルフビルド
 森の家を自然素材（例えば藁）を使って、地元の大工さんなどの協力のもと、自分たちで作らしましょう。森の家だけではなく、みんなの建物、各住戸も、セルフビルドが可能な作業は、自分たちで作らしましょう。

